

「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび 2021」にご協力頂き、ありがとうございます。
さて、前号の岡山連盟西大寺第1団に引き続き、今号は、大分県連盟で実施した「ワクワク自然体験あそび」の視察レポートをお届けします。

大分県連盟

「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび
～デイキャンプ体験～」

日 時：令和3年10月31日(日)
1回目 10時～12時 2回目 13時～15時

会 場：大分川宗麟大橋 河川敷

参加人数：50名(各回 25名)

プログラム概要

キャンプに行くために必要な準備や技能をポイントラリー方式で体験する4種のプログラムを実施。

①キャンプに役立つロープワーク(3種)体験 ②ドームテント張り体験 ③キャンプに必要なものを選んでザックにパッキング・大型ザック体験 ④デカゴコンテンツでキャンプ体験

いずれのポイントも普段の活動で展開する資材と技能を有効活用し、シンプルかつスマートなプログラム構成となっていました。



一過性でない地域・行政との連携強化

国と大分市が大分川下流域で進める「かわまちづくり」事業とタイアップし、社会実験として行われた当日のイベント会場において「ワクワク自然体験あそび」を実施していました。地域資源を有効に活用し、地域貢献を果たしながら、一過性でない地域・行政との連携強化は、ボーイスカウト運動の普及に効果的な取り組みになっていました。



コロナ禍で有効な親子同伴のポイントラリー方式

いずれのポイントでも親子がいっしょに楽しめるプログラムが展開されていました。

ポイントラリー方式は、参加者を分散させることで距離を保った行動が促され、また汎用性も高いことから、コロナ禍に適した方法と考えられます。また、親子単位でプログラムを進行させることで、不要な接触を予防できる効果もあります。



スカウトの見える化の工夫

ボーイ隊以上のスカウトが各プログラムで奉仕したり、近隣のボーイ隊がイベントに合わせて会場横で隊集会を行うなど、参加者が身近にスカウト活動を感じとれる工夫がありました。快活でキビキビとしたスカウトの姿に勝る本運動のアピールはないでしょう。

○行政が推進している河川と街を活性化する事業に県連盟として戦略的な関係性を築いておられ、このイベント開催が一層の連携強化につながるものと期待します。○また、イベント終了後に各団の指導者がにこやかにお見送りしながら個別に声掛けする姿は、ホスピタリティに満ちており、主催者としての基本的な姿勢を再認識させていただきました。

大分県連盟

「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび
銀河鉄道～発車オーライ～」

日 時：令和3年12月4日(土) 13:30～19:30

会 場：横岳自然公園

参加人数：対象児童(小2～小4)13名

プログラム概要

銀河鉄道を題材にしたプログラム(①テント立て・キャンプ体験②ハイキング体験③野外調理体験)と天体観測。寒波襲来で寒い1日でしたが、子供たちは元気いっぱい、活動を楽しんでいました。



加盟員減少地域で県連盟挙げて実施

県内でも加盟員数減少が著しい地域を会場として開催。県連盟全体で減少地域を底上げするという意図が明確で、本イベントがその起爆剤としての効果

と県内スカウト関係者の結束を固める効果を果たしていると感じました。



保護者向け体験プログラムの仕掛け

開会式終了後、保護者は参加児童と別れ、別プログラムを体験しました。

〔PR動画視聴→肥後守を使って鉛筆削り体験
→フェザースティック作り体験→薪割り体験〕
鉛筆削り体験で刃物の使い方を覚え、その後の体験の成果物であるフェザースティックや薪が、参加児童のカートンドッグ作りやスモア作りの焚き付け材となるというストーリーを設定したことで、保護者にも充実した体験を提供でき、かつ、子供とも思い出を共有できる仕掛けとなっていました。併せて、初対面の保護者同士も共通の作業を通して連帯感が生まれ、コミュニケーションが深まるという相乗効果もあったようです。

○大分県連盟の「ワクワク自然体験あそび」は、普段の活動で使用する資材と技能を活用したシンプルなプログラムをベースにして、参加者の満足度を高めるアイデアやおもてなしが随所にちりばめられていました。○皆さんの団でも、他団の良いところはどんどん取り入れ、かつ、独自の工夫を重ねて「ワクワク自然体験あそび」に更なる磨きをかけていきましょう。

令和4年1月31日現在の会場登録数など

30県連盟から306会場の登録があり(最多は愛知連盟の86会場、次いで神奈川連盟の36会場)、213会場で4976人の参加申込みがありました。